

コロナ後の大学教育

川口短期大学

川口短期大学では昨年、第一次緊急事態宣言が発出されると感染防止の為、オンライン授業を開始し、宣言が解除されると感染防止に最大限配慮して対面授業に戻りました。意見を直接ぶつけ合うのが、学問を身に付ける核心だからです。それは、小規模大学で少数教育に努めてきたおかげで、3密にならぬよう配慮することができたからです。

■これから求められる人材
日本は欧米と比べて経済格差が小さく、石炭火力を除けば地

球環境対策もかなり進んでいますが、でも、1990年代初頭から資産バブル崩壊による長期の超円高・デフレ不況対策に追われ、ハイテク・イノベーションでは世界に遅れをとりました。学校教育のオンライン化普及率が、欧米と比べ下位にあるとの報告を受けたある閣僚は絶句したそうです。コロナ後のオンライン化の推進は急務です。

現下の日本では、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ICT（情報通信）、5G等の更なる革新で、強固な

相沢 幸悦 特任教授



■新しい経済・経営教育
時代の要請に 대응するべく、大学には、コロナ後の高度情報化社会に対応可能な新しい経済・経営教育が要請されています。

で、この4月から川口短期大学と姉妹校・埼玉学園大学は、AI、プログラミング、データサイエンス、プラットフォームビジネス、暗号資産とブロックチェーン、フィンテックとデジタル社会等の科目を新設しました。その為、情報関係で最先端の研究者を招聘して、情報教育を更に質的に充実させます。

「コロナ後の大学教育」といことについて、とりわけ強調したのは、貧しいひとがならず、助け合いの精神に満ちた、本當の意味で豊かな日本を構築することに貢献できる人材の養成が不可欠ではないかということ

です。
「貧しいひとがいない社会」の実現の道筋については、拙著「定常型社会の経済学」を（参照下さい）。

（こ）で教育についての私見を一つ。
若かりし頃、虚しいことですが、（いい意味で）歴史に名を残す人間になりたいと思つたことがあります。もちろん、ダメでしたが、この歳になってようやく、どんな困難に突き当たっても、敢然と力強く生き抜ける気概を身に付けること、これが人間のしあわせだ、と感じるようになった。古稀のお祝いに孫にももらった「じいちゃん、ありがとう」という手作りのメダル、これこそが私の人生にとつてすばらしい「勳章」です。

人間としてしっかりとした信念を持ち、どんな困難にも敢然と立ち向かう気骨ある人材の養成、これこそが大学教育の真髄ではないでしょうか。

高度情報化社会を構築していくことが喫緊の課題ですが、この分野の人材不足は深刻で、グローバル化が進む高度情報化社会に対応可能な人材の養成が大学の喫緊の課題です。

その大前提は学生が、日本経済を含む世界経済の現状を的確に把握し、どこに根本的な問題・課題があるかを的確に認識できる能力を有し、あるべき高度情報化社会と経済的要因によるコロナ危機等に対応可能な日本経済・世界経済像について、十分な情報と分析手法・視角を堅持し、見極めていく能力を身に付けたいです。

あいざわ・こうえつ 1950年生まれ。慶応義塾大学大学院博士後期課程修了、経済学博士。川口短期大学客員教授。著書「定常型社会の経済学」（ミネルヴァ書房、2020年）。